

SHIRAKOBATO

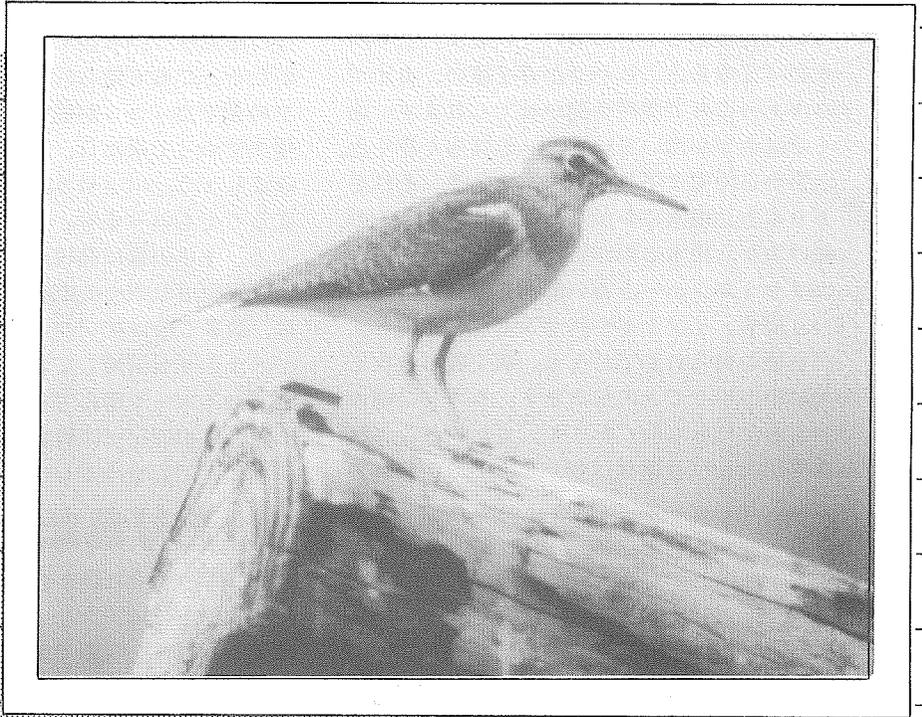
しらこぼと



1988. 10

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 53

日本野鳥の会 埼玉県支部

阪東大橋 (本庄市)

(1) 広大な河原は鳥の宝庫

坂東太郎と呼ばれる利根川。埼玉県と群馬県の境に架かる阪東大橋。その下流は四季を通じてたしかな息吹で自然の姿を見せてくれます。高崎線本庄駅北口から伊勢崎行きのバスに乗り15分ほど走ると利根川の堤に出ます。橋の手前の「南詰」というバス停で降りると、もうそこから広大な河原を見おろすことができます。顔を上げると赤城山、浅間山、妙義山といった山々が迫って見えます。さて今回は、南詰（埼玉県側）のコースを歩いてみましょう。

(2) スミレとさえずりの春

土手を下流に向かって歩いてみましょう。スミレの花があちこちに咲いています。土手にすわってみると、ヒバリが春を歌い、ホオジロがあちこちで美声を聞かせてくれます。遠くではキジが鳴いています。しばらく歩くと、土手から河原に下りる道があります。それを下りると、用水にかかる橋があります。その橋の上から用水の兩岸を覗いてみましょう。カワセミがツィーと青い軌跡を残して飛んでいく姿や、イソシギやクサシギなどが動きまわる姿も見られるでしょう。橋を渡ると牧草地の中を歩くこととなります。ウズラの鳴き声があたりから聞こえます。また、放牧された牛がのんびり寝そべり、その上に美しいア

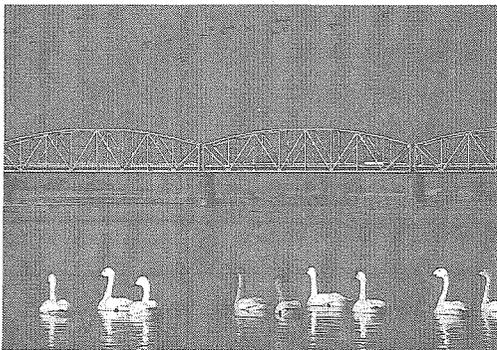
マサギがのっている姿を目にすることもあるかもしれません。牧草地を抜けたら左に曲り河原の方に出てみましょう。アオアシシギの声があなたを呼んでいるかもしれません。キアシシギやソリハシシギなどやチドリの仲間もいるかもしれません。以前は多くのシギ・チが入っていましたが、最近では砂利採取のためか、その数がめっきり減ってしまったのが残念です。

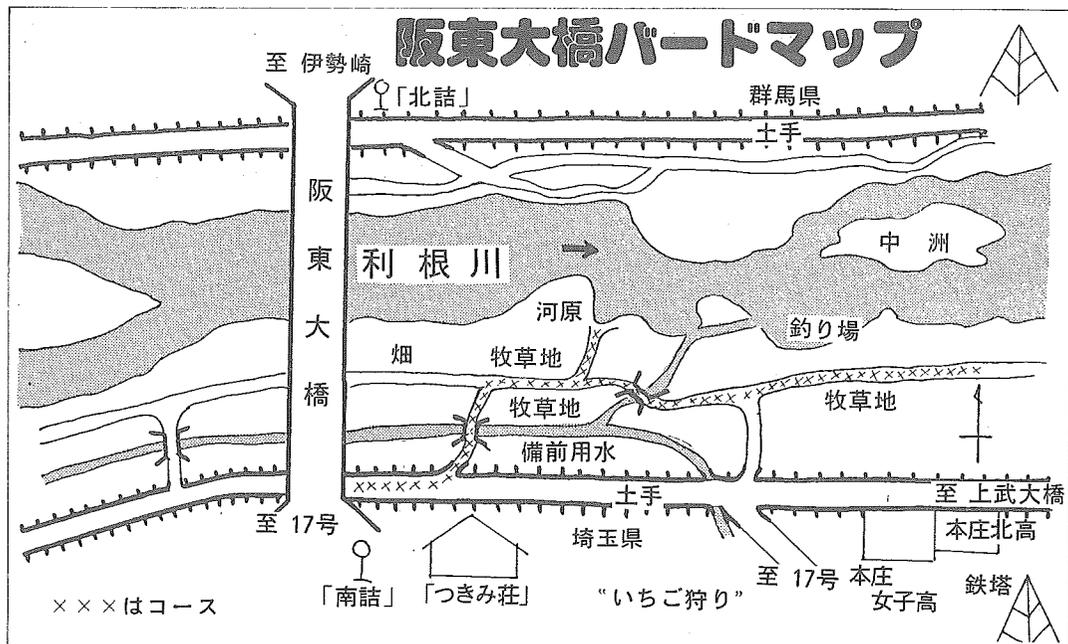
(3) 夏は繁殖の季節

ここ数年、ツバメチドリが渡ってきて繁殖し、話題になっています。牧草地を抜けたら左に曲らずに、さらに下流の方へ歩いていきましょう。セッカのさえずり飛翔や、まっ赤な口を見せながら盛んに鳴くオオヨシキリがいたるところで見られます。またニセアカシアの頂でカッコウが鳴いていることも。釣り場までやって来たら、水際をちょっと覗いてみましょう。バンやカルガモの親子連れに会えることもあります。さらに下流に歩いていくと、土手の脇に高校が建っています。その向い側の川の中央に中洲が見えます。そこでは、数多くのコアジサシやチドリ、そしてツバメチドリも繁殖しています。やや遠いですがプロミナーを構えてじっくり見ましょう。かわいらしいヒナに餌を与える光景に思わずほほえんでしまうでしょう。

(4) 渡り鳥たちの秋

南へ帰る途中の鳥たちが立ち寄っていきます。牧草地では、クリッとした瞳のノビタキの姿や、群れをなして舞うショウドウツバメも見られるでしょう。また最近、狩猟用に放された外来種のコリンウズラの姿が目につくようになってきました。そして、ひょっこりイタチが姿を見せたりもします。さらに、中洲や水辺にはシギ・チがついています。丁寧に探せば思わぬ発見があるかも。





(5) 冬こそ最高

やはり、ここが最も楽しいのは冬でしょう。しかし、名物の“赤城おろし”（強風）でかなり寒いので十分に防寒を。阪東大橋から下流の鉄塔まで約5kmが禁猟区になっているため、多くのカモが集ってきます。マガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモなどにまじって、少数ながらホオジロガモ、トモエガモ、オカヨシガモ、ヨシガモやアメリカヒドリ。さらには、美しいカワアイサの姿も毎年必ず見られます。また、去年はマガンが越冬したり、今年は、コウノトリが立ち寄ったり、クロツラヘラサギが越冬するなど、珍しいお客さんがやってくるのもこの季節です。さらに上空も忘れずに。ハヤブサは常連。よく鉄塔に止っています。またノスリやチョウゲンボウの姿も見られるでしょう。夕方になると、刈られた牧草地にコミミズクが舞い、杭に止まる姿が見られることも。しかし、なんといっても圧巻はコハクチョウ。いてつく北風の中でじっとたたずむ姿は孤高ともいえる美しさを感じさせてくれます。定期渡来地として毎年やって来ていますが、砂利採取などの影響もあり、年々その数を減らしており、常時見ることができなくなってしまったのは、本当に残念です。

(6) さらにこんなことも

阪東大橋を渡って群馬県側を下流に歩くコースもおもしろいでしょう。カモが間近に見られたり、中洲にシギ・チがついています。車で来られた方は、鉄塔のさらに下流の上武大橋まで土手を進んでいくと夏ならサギの仲間、冬には猛禽類をよく見かけます。また反対に、上流の五料橋まで見ていくと、畑やちょっとした林があり、タゲリやミヤマホオジロなどが見られます。

そして、アフターバードウォッチングなら、春はいちご狩り。土手のそばの農家ではビニールハウスでいちご狩りをやっています。また、南詰バス停の裏にある「つきみ荘」という福祉センターは一般の人でも利用でき、300円でお風呂に入れ、休憩室も利用できます。冬、バスを待つ間に、冷え切った体を暖めていくのもよいかも。

最後になってしまいましたが、河川敷が次々とゴルフ場などになっていく中で、ここが自然と人間が本当の姿のままで、つきあっていける河原でいつまでもあってほしいと願わざるを得ません。

(町田好一郎・林 滋・北川慎一)

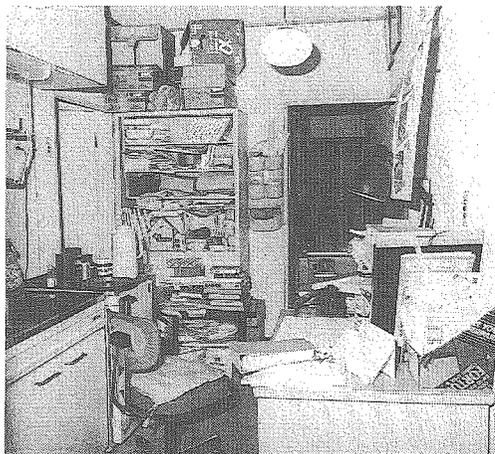
エッエー、事務局は埼玉県支部の持ち物じゃない!?

事務局問題検討委員会

そうなんです。私たち日本野鳥の会埼玉県支部（以下、支部と略す）の事務局は、支部としての持ち物ではなく、実は、副支部長と事務局長を兼任している海老原さんの仕事上の事務所内に置かせてもらっているのです。しかも、新支部創設以来ですから、来年の4月で丸5年になります。その間、維持費等は全くの無償。事務局に入ってくる諸々の雑事も、海老原さんが自分の仕事の合い間をぬって（と、本人は話していますが、実は、時には仕事を犠牲にしているフシ有り）担当しています。特定の個人に長期にわたり負担をかけすぎている。これが事務局問題のひとつです。

支部の物を置く場所もなくなってきている。これも事務局問題のひとつです。会員数が、900人を越えた現在、支部の物（販売物、各地の支部報、保存用の支部報、図書類、封筒、パネル、スクリーン、映写機、複写機等々）も増え続け、現在の事務局ではもう満ぱいなのです。

で、事務局問題検討委員会（以下、委員会と略す）は議論を重ねているところですが、



支部の物が侵略した事務所



（押川歳子）

一応下記のことを打ち出されています。

- 1000人近くの組織を維持するには、支部の維持管理する事務局が必要である。
- 直ちに事務局窓口を移動することは問題としても、今とは別の所に事務局のスペース（事務局分室）を確保する。

では、事務局分室をもてるとどんなメリットがあるのでしょうか。

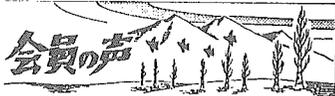
- 会員相互の交流の場として利用できる。
- 支部の物の保管と利用が手軽にできる。
- 袋詰めの会や写真クラブ定例会の場所として利用できる。現在では、そのたびに数十キログラムもの支部報、封筒、名簿、スクリーン、映写機を自転車で運んでいます。
- 役員会や各部会議に利用できる。

などなど、たくさん考えられます。

そこでお願いします。どなたか、事務局分室としてのスペースを無料か安く貸して下さる方はいらっしゃいませんか。

事務局（TEL0488-32-4062）で連絡をお待ちしています。

ご意見、ご提案などもお寄せください。



今、ハバロフスク...

北川慎一 (本庄市)

今、ハバロフスクにいます。ホテルのまわりでヤツガシラが採餌をし、カササギはわんささといます。タイガ地帯に少し入り、ヒメチヨウゲンボウとシベリアセンニュウなどを見ることができました。これから、いよいよアムール川の中洲に探検に入っていきます。ワクワクしています。ただし、最近よく熊が出るそうです。

ところで、ハバロフスクという街は大変はなやかな所です。人通りの多い大通りのスタンドで買って食べるアイスクリームとピロシキは最高です。しかも安い。両方とも20円位です。それに、すれちがう若い女性はみなチャームングで、思わずカタコトのロシア語で声をかけてしまいます(ほとんど通じませんが...)



村上由香 (越谷市)

久しぶりのカワセミ

金子明弘 (浦和市)

今日は、通船堀で久しぶりにカワセミを見たので報告します。

5月号に「...ここ数年、姿を見ていない...」とのことでしたが、私もやはり2年程見ていませんでした(そう頻繁に行っているわけではありませんが)。場所は八丁橋から東縁を少し歩いたところです。

ほかに東縁の近くで、コサギ、アマサギ、チュウサギの30羽以上の群れ、タシギ2羽、それにイタチを2頭も見せてしまいました。

(8/15 記)



お母さんにも見せて

『しらこぼと』の原稿いつでも大募集!

『しらこぼと』は、会員皆で作る会誌です。会員の声、探鳥記、主張、コラム、カット、レポート等々どしどしお寄せください。

鳥情報

カイツブリ ◇8月25日、本庄市の阪東大橋下流でヒナ1羽が、増水した流れを必死で泳いでいた(町田好一郎)。

アオサギ ◇8月15日、坂戸市西坂戸の調整池で2羽(増尾 隆)。

コガモ ◇7月24日、浦和市見沼の芝川で3羽(若林正徳)。

ハシビロガモ ◇8月6日午前5時30分、本庄市の阪東大橋下流で若鳥1羽。繁殖した可能性があると思われる(町田好一郎)。
(※ハシビロガモは、日本では北海道北部、で少数繁殖している。)

キンクロハジロ ◇8月14日、妻沼町上江袋で♂1羽(大麻生探鳥会2次会組)。

オオタカ ◇8月8日午後4時50分、本庄市の阪東大橋下流の中州の枯枝の上で1羽。ギョロリ、ギョロリとあたりを無言で威圧していた(町田好一郎)。

チョウゲンボウ ◇8月16日、戸田市道満で2羽(手塚正義)。◇8月29日午前9時50分、本庄市の阪東大橋下流で1羽。カワラヒワの群れを何度もおそう(町田好一郎)。

ヒクイナ ◇8月7日、浦和市大谷口の遊水池で2羽(近藤 崇)。

ムナグロ ◇8月15日、川口市の荒川大橋上流の河川敷で約150羽(手塚正義)。

ダイゼン ◇8月4日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(林 滋)。

キョウジョシギ ◇8月6日、本庄市の阪東大橋下流で3羽。利根川の流れの砂利の上で小石をうら返しにしていた(林 滋、町田好一郎)。

アオアシシギ ◇8月4日、本庄市の阪東大橋下流で19羽(林 滋)。

タカブシギ ◇8月4日、本庄市の阪東大橋下流で5羽(林 滋)。

キアシシギ ◇7月31日、川本町明戸で1羽(諏訪隆久) ◇8月4日、本庄市の阪東大橋下流で2羽(林 滋)。

トウネン ◇8月4日、本庄市の阪東大橋下

流で2羽(林 滋)。

オグロシギ ◇8月6日、本庄市の阪東大橋下流でアオアシシギ12羽の群れ中に1羽。

オレンジ色が鮮かであった(町田好一郎)。

ウミネコ ◇8月15日午後5時、川口市の荒川大橋下流のゴルフ場に約100羽の群れが舞い降りる(手塚正義)。◇8月27日午後6時20分、本庄市の阪東大橋下流で1羽。大増水している本流の上をフワリフワリと飛ぶ(町田好一郎)。

アジサシ ◇8月29日午後10時20分、本庄市の阪東大橋下流で1羽(町田好一郎)。

アオバト ◇8月18日、所沢市久米鳩峯八幡神社の大木で1羽(遠藤 薫、橋本宣典)。

カッコウ ◇8月27日、所沢市久米鳩峯で鳴き声(遠藤 薫)。

アオバズク ◇8月23日午後11時40分、大宮市日進町の外灯近くの電線上で2羽。酔ってチドリ足の私を、首だけまわしてずっと見送っていた(森本國夫)。

ヤマセミ ◇8月28日、飯能市前ヶ貫の名栗川と成木川の合流点付近で1羽(千葉能亢)。

カワセミ ◇7月30日、朝霞市の内間木橋付近で1羽(双田善造)。◇8月5日、春日部市増田新田で1羽(石川敏男)。◇8月15日、浦和市通船堀で1羽(金子明弘)。◇8月28日、飯能市の名栗川と成木川の合流点で1羽(千葉能亢)。

ツバメ ◇8月11日午後5時30分、本庄市の阪東大橋下流で1500羽。ムクドリ3000羽の群れとともに大増水した利根川上空を乱舞していた(町田好一郎)。◇9月2日、浦和市木崎の工業技術研究所付近で白化個体1羽(影山和則)。

ウグイス ◇8月30日、大宮市北袋町の斜面林でさえずる。6月から現在まで、毎朝鳴いている(浅沼源一郎)。

コヨシキリ ◇8月12日、本庄市の阪東大橋下流のアシ原で1羽。小雨の降る中、アシの枝でジッとしていた(町田好一郎)。

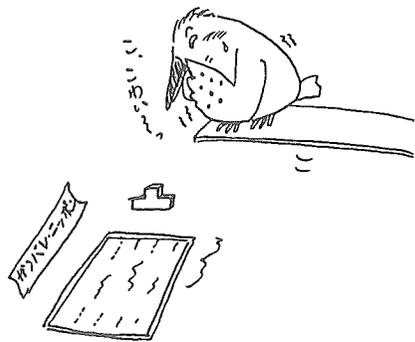
イカル ◇8月2日、大宮市日進町で1羽。よい声で鳴く(森本國夫)。◇8月28日、飯能市前ヶ貫の名栗川と成木川の合流点付近で1羽(千葉能亢)。

【10月の見どころ】

今年の夏は、異常だらけの夏でした。夏の間のカモ類の情報が多いという珍しい年でした。カモの越夏個体が今年は何となくいたんではなかったかなと思います。

10月は、一年中で一番気候のよい季節です。秋晴れのもとバードウォッチングにでかけましょうか。

日本で局地的に繁殖するチドリの仲間でケリという鳥がいます。キジバトぐらいの大きさのスマートな鳥です。人によっては、いやらしい目つきをしているという人もおられますが…。田んぼにおりている時は地味で目立ちませんが、飛んだ時は、白地に頭から背の茶色、翼の先の黒という配色の鮮やかな実いきれいな鳥です。これだけ下におりている時と飛んでいる時の印象の違う鳥も少ないんじゃないかなと思います。以前、浦和市の秋ヶ瀬で見たケリのことが忘れられません。周囲に稲束をかけていて、外からは簡単にのぞけない田んぼがありました。サギの白い姿が何羽か見られました。おもむろに近づいてみると、驚いたコサギやタカブシギなどが一斉に飛び



(押川歳子)

たちました。その中で目の前で飛び上った鳥がケリでした。一番近かったせいか翼を開いた時は、コサギとあまり大きさが変わらないように感じました。その美しさに、しばしばう然としていました。ケリは、東海地方に多い鳥で、県内では、そう簡単に見られる鳥ではありませんが、秋の情報が多いので、この秋は、周りの田んぼでケリを探してみませんか。一度見たら、きっとファンになると思います。

また山地や平地の林では、アカハラによく似ていますが、白い眉斑のあるマミチャジナイという鳥も見られます。ムクノキやミズキなどの実のなる樹林によくやってきますが、シギ・チと同じように渡りの途中に日本にたちよる鳥ですので、日本にいる期間が短いので出会う機会の少ない鳥です。3年前の平林寺の探鳥会で駐車場傍の林で♀が見られました。秋の陽に映えて白い眉斑が鮮やかでした。

冬鳥の渡来も今年は早いかもしれません。それからお願いですが、野鳥情報をおよせの際は、その時の印象とか、何でもけっこうですから一言コメントをそえていただければありがたいのですが。

(藤原寛治)



(押川歳子)

表紙の写真

イソシギ (シギ科)

阪東大橋下流の利根川は「あばれ坂東」の異名があり、水害の多いところだったようです。たくさんのクイが打ち込まれ、今でも数多く残っています。そこに、夕方になるといつもイソシギが来ます。

このクイを見るたびに治水の苦勞がしのべれます。

クイだけ記録に残したのでは芸がありませんので、イソシギに登場してもらいました。

(写真と文・林 滋)



熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月9日（日）
 集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前
 交通：秩父鉄道熊谷9：04 発→大麻生9：12
 着 / 秩父鉄道寄居9：01 発→大麻生
 9：19 着
 解散：午後1時ごろ
 担当：諏訪隆久、鈴木忠雄、榎本秀和、林滋、
 岡安征也、町田好一郎
 見どころ：大麻生の森の小鳥を訪ねます。久
 しぶりに「野鳥の森」を探鳥。森を抜
 け、河原に出るコースで、あなたはー
 味違う大麻生を体験するでしょう。ゴ
 ルフ場ができる前の、懐かしい雰囲気
 がここにはあるのです。

北川辺町・渡良瀬遊水池探鳥会

期日：10月9日（日）
 集合：午前9時10分 東武日光線柳生駅前
 交通：東北本線大宮8：14 発 → 栗橋8：42 着、
 東武日光線乗り換え8：55 発 → 柳生9
 ：05 着
 解散：午後1時ごろ
 担当：山部直喜、石川敏男、木村義人
 見どころ：広大な遊水池、待っているのは誰。
 芦原に見え隠れする、旅の途中の小鳥
 たち。水面にはまだ換羽しきれないカ
 モの群。そして天高く、あるいは地平
 線すれすれに、雄姿を見せるタカの仲
 間たち。

野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
 探鳥会に参加される場合、持ち物は、筆記
 用具、雨具、昼食、ゴミ袋、（もしあれば）
 双眼鏡など。参加費は、一般＝100円、会員
 及び中学生以下＝50円。受付は探鳥会当日で
 す。特別な場合を除いて予約申込みの必要は
 ありません。小雨決行です。

夢中になりすぎて、鳥を驚かしたり、植物
 を荒らしたりしないように。タバコの吸い殻
 やゴミを散らかすなんて事はもってのほか。
 いつもフィールドマナーをお忘れなく。
 身支度ができたら、さあ出発！

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：10月16日（日）
 集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または
 午前9時 浦和市立郷土博物館前
 （北浦和駅前の場合、その後バス利用）
 解散：午後1時ごろ
 後援：浦和市立郷土博物館
 担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、乗田
 実、手塚正義
 見どころ：三室の秋深まり、響き渡るモズの
 声。気の早い冬鳥の姿を搜しましょう。

荒川村・日野溪谷探鳥会

期日：10月23日（日）
 集合：午前10時 秩父鉄道武州日野駅前
 交通：秩父鉄道熊谷8：30 発→寄居9：01 発→
 武州日野9：56 着 / 西武秩父線所沢
 8：01 発快速急行 西武秩父9：19 着、
 秩父鉄道乗り換え、御花畑9：41 発 →
 武州日野9：56 着
 解散：午後2時ごろ
 後援：埼玉県（第43回愛鳥週間「全国野鳥保
 護のつどい」キャンペーン行事）
 担当：海老原美夫、福井恒人、林滋、杉本秀
 樹
 見どころ：山の鳥、溪谷の鳥。秋色の木々の
 間を歩いたら、澄み切った流れのほと
 りでひとやすみ。豊かな自然体験にお
 いでください。鳥？…ああ、鳥も、も
 しいたら見ましょう。

『しらこぼと』袋づめの会

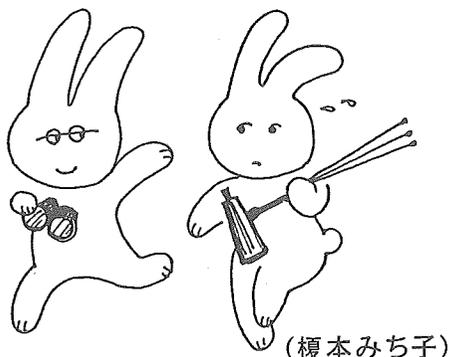
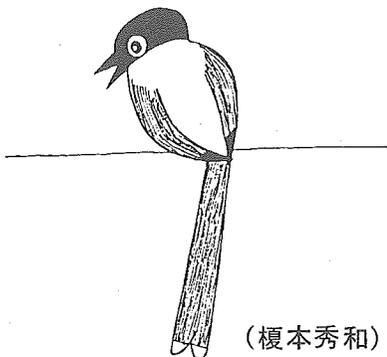
とき：10月29日(土) 午後1時～3時ごろ
会場：浦和市立コミュニティーセンター2階
第1講座室(浦和駅西口から県庁通り
西進、中山道を左折し約600m右側)
案内：第三郵便物が認可されたことで、折ら
ずに『しらこぼと』を袋づめできる
ようになりましたが、人手はまだまだ
必要です。今月もよろしくね。

野鳥写真クラブ定例会

とき：10月29日(土) 午後3時ごろ～5時
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ
案内：『しらこぼと』の袋づめを終えて、お
やつでもつまみながら見るスライドは
また格別。

第43回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」 バードウォッチング・フェスティバル

期日：10月29日(土)～11月7日(月)
午前10時～午後8時
会場：熊谷駅ビルA Z
共催：埼玉県
後援：熊谷駅ビルA Z 株式会社ニコン
株式会社アイリスメガネ
内容：6階A Zサロンでバードフォトコンテ
スト入選作30点を展示。4階カプセル
プラザではミニサンクチュアリ展とバ
ードショップ。バードウォッチング教
室(11月3日午後2～4時)、バード
カービング教室(11月6日午後1～4
時)も。今年は一段とにぎやかに開催
します。



蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：10月30日(日)
集合：午前8時45分 東北本線蓮田駅東口
(その後現地までバス利用)
交通：東北本線大宮8:31発→蓮田8:42着
解散：午後1時ごろ
担当：中島康夫、松井昭吾、石川敏男、木
村義人、浅田徳次、小林恒雄
見どころ：冬鳥が到着のご挨拶。今シーズン、
まだシメやツグミに会っていない人集ま
れ。ジョウビタキにも出合うかも。林
の鳥、水辺の鳥、何が飛び出すかはお
楽しみ。

川口市・差間探鳥会

期日：11月3日(祝)
集合：午前9時 武蔵野線東浦和駅前
交通：武蔵野線南浦和8:51発→東浦和8:55
着
解散：午後1時ごろ
担当：為貞貞人、楠見邦博、手塚正義
見どころ：秋色深まる田園風景。どこか懐か
しい景色に飛び込んで、晩秋のひとと
きを楽しみましょう。耳を澄ませば、
ウグイスやアオジの地鳴きが藪の中か
ら聞こえてきます。

11月6日(日) 吉見町・百穴周辺探鳥会
9:30 東武バス停百穴入口集合
11月12日(土) 栃木県・奥日光探鳥会
(日帰りです。予約不要)
11月13日(日) 熊谷市・大麻生定例探鳥会
11月13日(日) 富士見市・柳瀬川探鳥会

行事報告

8月7日(日) 初級ワシタカ類識別講座

人 53人 いろいろ安西さんの話を聞いたけど、どうもよく分からなかったのが、頭のうすい小鳥に「ノリタカちゃん」という名前をつけた理由と、識別講座3時間、そのあとの懇親会もめったやたらと盛り上がって3時間、はたしてどちらが本番だったのかなというところ。

そんなソボクな疑問も残ったけれども、ウトナイ湖にあらわれたチュウヒの幽霊談なども楽しく聞いて、もうワシタカの識別はまかせとけ。どンドン飛んでこい。たばになって飛んでこーい。

8月14日(日) 熊谷市 大麻生

人 23人 天気 晴時々曇 鳥 カイツブリ ササゴイ ダイサギ コサギ カルガモ ハイタカ コジュケイ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス (27種) 探鳥会が始まるなり、カワセミがホオジロよりスズメより近くにとまりフィールドスコープいっぱいにつしだされる。遠くの林の上に猛禽が現れないかと探し、ふと振り返るとハイタカが！ 数羽のツバメが必死でモビング。識別には、前週のワシ・タカ勉強会の成果が出た。この日参加者は非常に暑い熊谷の夏を体験し、帰ってからのビールが美味だったろう。

8月20~21日(土、日) 両神村親子キャンプ

教室 人 宿泊したのは32人、泊らなかった人も含めると50人。 天気 だいたい晴 にぎやかに巣箱や餌台作り、夜には花火大

会や映画会、ヤマセミも見えた早朝探鳥会、花をよく見た自然観察会、あいまには宝探しやスイカ割りも。もりだくさんに楽しんで、豚汁なんかもおなかいっぱい食べちゃって、みんなニコニコ。

親の付き添いなしの一人で一晩泊まった小学2年の子、都内小石川から参加した親子、いろんな人がいました。

家族4人で参加した林滋(支部幹事)「巣箱や餌台で、子供たちの夏休みの宿題ができちゃいました。宝探しですてきなTシャツもいただきました。秋父愛鳥会の皆さん、たいへんお世話になりました。」

8月21日(日) 浦和市 三室地区

人 48人 天気 晴 鳥 コサギ カルガモ イソシギ キジバト ハリオアマツバメ アマツバメ カワセミ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシボトガラス (23種) 残暑厳しく、見沼代用水に沿った木陰の多いコースを選んだ。ツバメ、イワツバメ、アマツバメに加え、ここの探鳥会では初登場のハリオアマツバメが現われ、図鑑と首っ引きで識別の勉強会となった。うれしいことにカワセミがいつもの場所に現われ、定着しているようで、しばらくは三室の目玉になってくれそうだ。

8月27日(土) 『しらこぼと』 袋づめの会

がんばってくれた人 石川順子、岩波勇一、海老原教子、海老原美夫、楠見文子、奈良部登喜枝、林滋、藤野富代、吉田二三子、渡辺孝章(10人) 記念すべき3種郵便として最初の袋づめ。郵便番号順に整理したりするのが慣

れなくてちょっと手間取ったけど、折らずに大きな封筒に入れられるのは何といっても気分がいいものです。

8月27日(土) 野鳥写真クラブ定例会

集まった人 12人 作品発表した人 3人



探鳥会スナップ・元気!! 夏休み
(8月21日三室地区探鳥会で)

ナガ ハシボソガラス(32種) 関東地区8支部の「大」合同探鳥会。埼玉では見かけない海のシギ・チドリを楽しんでから、今年も千葉県支部心づくしのアサリ汁。あつい干潟にあつい味噌汁はよく似合う。おいしかったです。

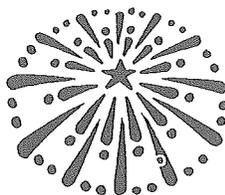


いろんな人との交流も楽しい谷津干潟探鳥会

8月28日(日) 千葉県 谷津干潟

人 合計約200人(県支部26人) 天気 曇

時々晴 鳥 ダイサギ コサギ アオサギ
カルガモ コチドリ シロチドリ メダイチ
ドリ ムナグロ ダイゼンキョウジョシギ
トウネン ハマシギ オバシギ アオアシシ
ギ キアシシギ イソシギ ソリハシギ
オオソリハシギ ダイシャクシギ ホウロ
クシギ チュウシャクシギ ユリカモメ ウ
ミネコ キジバト ツバメ ハクセキレイ
セッカ カワラヒワ スズメ ムクドリ オ



参加者の声

谷津干潟探鳥会

町田好一郎(本庄市)

むかし、深川に住んでいた頃、小名木川からボンボン蒸気(一寸古いカナ!!)に乗って沖へ出た時と同じ磯の香りが谷津干潟から漂ってきて、幼い頃の思い出が走馬灯のように蘇ってきました。駅を降り、干潟を目の当たりにして、先ず杭の上で直立するアオサギ達の敬礼を受けてから、対岸のリッチなマンションをバックに、ウミネコ、ダイゼン達の乱舞の歓迎を受けて又々御満足。「ワイワイ、

ガヤガヤ、ザワザワ」……そんな中で各県支部のワッチャー達を識別しながら、いよいよヒゲのリーダー岩淵氏の先達で本番開始です。「イルワ!! イルワ!!」先の曲った長いのやら短いのやら、チョロチョロ忙しく走り回っているのやら、小石をひっくり返しているのやら……。あ〜あシンド!!

終わった後、待望のアサリ汁も恐る恐るの3杯目なのにギャルのスマイルでOK。ごちそう様でした。千葉県支部の皆さん!! お世話になりました。リーダーの皆さん!! ありがとうございました。



カモの猟期変更問題

秋田・青森・山形3県のカモの猟期を現行の11月15日～2月15日から、11月1日～1月31日と変更することを環境庁は決めました。

野鳥の会はかねて『野鳥』誌などで、これにはさまざまな問題があって、鳥獣保護行政の後退であると反対してきたものです。

9月3日(土)午後3～6時、環境庁で説明会があり、保護団体関係者約40名、当支部からは海老原副支部長が出席、多くの質疑応答がありました。

環境庁としては、ヨシガモなど生息数の少ないカモを狩猟対象からはずす、1月15～17日は全国的にカモ狩猟を中断し、生息状況調査を実施するなどの措置を取ると説明しましたが、結局なぜ猟期を変更したのか合理的で明確な説明はありませんでした。

1月15日、当支部も独自に毎年実施しているカモの生息調査を今冬も行ないません。どのような影響が出るか、厳重に監視していきます。

関東ブロック会議に出席

8月27日の午後から一泊して千葉県船橋市内で関東ブロック会議が開催され、関東地区各支部の代表者が集まり、夜遅くまで各支部の現状報告やさまざまな話し合い、交流(別名飲み会)が行なわれました。当支部からは福井恒人事業部長と諏訪隆久幹事の2名が出席。翌日の谷津干潟合同探鳥会にも出席者全員が合流しました。

「緑のシンポジウム」開催

日時：10月15日(土) 13:00～17:40

場所：浦和市 埼玉会館小ホール

主催：(財)緑の地球防衛基金、埼玉県ほか

協力：当支部ほか

テーマ：自然保護と開発の調和

第6回ナショナル・トラスト全国大会

日時：10月22日(土) 23日(日)

場所：大宮市 ソニックシティ小ホール

主催：ナショナル・トラストを進める全国
会、埼玉県ほか

協力：当支部ほか

内容：講演、シンポジウム、トラスト運動団
体による報告

会員数は

9月20日現在 928人です。

活動報告

8月1日 『しらこぼと』8月号発送。

8月10日 全国野鳥保護のつどい実行委員会
に今井支部長出席、委員に就任。

8月12日 『しらこぼと』第3種郵便物認可
書(8月2日付)浦和中央郵便局で受領。

8月21日 役員会(司会・岡安征也、1月初
めまでの行事予定、事務局問題など)

8月22日 9月号校正(大武昭雄、西城戸司、
森本國夫)。24日再校(森本)。

8月26日 3種郵便物の封筒納品。

9月2日 事業部事務処理など(草間)。



今年の4月号から始まった探鳥会地特集はいかがでしょうか。実際にその地へ行かれた方、ぜひ追跡レポートをお寄せください。「そのとおりだった」、「全くそんな鳥は見なかった」、「様子が変わっていた」、「こんな鳥もいたぞ」等々、いろいろ書けると思います。原稿用紙で800字程度、形式自由です。

(山部直喜)

『しらこぼと』 1988年10月号(第53号)

定価 100円(会費に含まれます)

発行人 今井昌彦

編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部

☎ 0488(32)4062

〒 336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130

印刷 望月印刷株式会社

(本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)